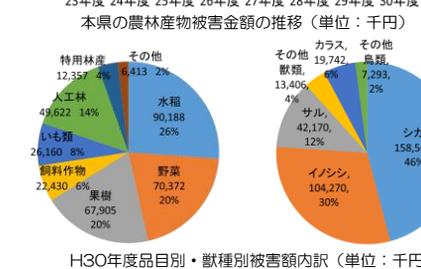
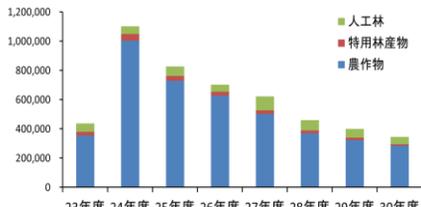


本県の平成30年度の農林作物被害額は約345,447千円で、うち農作物被害は283,468千円、人工林49,622千円、特用林産物12,357千円で、農作物被害額は全国18番目となっています。各種取組により、被害額は年々減少傾向ありますが、未だに被害軽減を実感できない地域もあるようです。

鳥獣被害対策支援センターでは、被害防止対策の技術指導や地域へ適切な知識の普及や技術定着を担う人材の養成、被害対策の実証や被害対策に関する情報発信を行っています。鳥獣被害に関する御相談等ありましたら気軽に御声かけください。(所在地：宮崎市佐土原町下那珂580宮崎県総合農業試験場管理棟3F)



令和2年度鳥獣センター活動事項

地域特命チーム等への技術的支援

地域特命チーム等からの要請に基づいて、県内各地の現地研修会や講演会の講師として活動することにも、各地域のモデル実証ほ場等において電気柵など、各種防護柵等の設置などの現地指導を行います。



鳥獣被害対策マイスター等の人材育成

被害防止対策の適切な知識の普及や現地における技術定着の役割を担う鳥獣被害対策マイスターを養成する研修会、既マイスター等の更なる技術向上を図るための研修会などを計画しています。今年度は研修回数や内容の更なる充実を図る予定です。積極的な参加をお願いします。

令和2年度 人材育成に係る研修計画 (予定)

研修名	研修内容	日程等	対象
マイスター養成研修	I・II	1回目 7月	新規マイスター 取得予定者
		2回目 8月	
		1回目 9月 2回目 10月	
技術向上研修	電気柵 中・小型獣捕獲対策	6月に2回 開催予定	既マイスター等
		8月 未定	
事業担当者研修		未定	県、市町村 担当者等

今後の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。

鳥獣被害防止技術の実証・研究



① 鳥獣被害防止技術の実証・展示ほ場
各地域特命チーム等と連携し、鳥獣被害防止技術の実証・展示ほを設置します。昨年度は、県内6ヶ所に設置し、期待通りの被害防止効果をあげています。地域でお困りの鳥獣被害があれば御相談ください。

② 試験場各部と連携した実証
総合農業試験場内ほ場の活用や研究員との連携により、各品目に応じた鳥獣被害対策の実証ほを設置します。

情報の発信

鳥獣センターや各地域特命チームの活動等を紹介する「鳥獣センター通信」の発行を行います。また、鳥獣被害対策の手引きの配布や、研修会等で使用した資料や動画等を要請に応じて提供します。



更に、総合農試内に展示ほを設置し、鳥獣被害を受けにくい栽培方法や各種防護柵の展示とともに各種研修の場として活用します。

場内展示ほ場の防護柵の展示 (楽落くん)

令和2年度鳥獣センター体制

- センター長 多田 健二 (新任)
 - 主査 宮坂 倫子 (3年目)
 - 主査 岩佐 宏登 (4年目)
 - 専門技師 川口 満 (2年目)
- 今年度もよろしくお願ひします！

被害対策に関する問合せ
西臼杵支庁及び各農林振興局
各市町村・各農協・各森林組合等

☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

児湯地域

○令和元年度九州各県鳥獣保護行政担当者会議の現地視察が木城町で開催されました。

九州各県鳥獣行政担当者会議は、環境省及び九州各県の鳥獣行政担当職員が参加し、九州各県の抱える行政上の課題などを共有する場として毎年開催されています。会議は、九州各県の持ち回りで開催されており、本年度は、宮崎県で10月23日～24日に開催されました。

会議は、1日目に会議・意見交換、2日目に現地視察という2日間の行程で開催され、2日目の現地視察は、児湯管内の木城町駄留地区で行われました。木城町の駄留地区は、農作物の被害額がピーク時には1千万円を超え、木城町の中でも、シカ、サル、イノシシによる被害が多発していた現状から、集落ぐるみでの緩衝帯整備などを地道に行い、農作物被害の激減に繋げた鳥獣被害対策の成功事例地区として、今回、現地視察箇所として選ばれました。

その駄留地区での座学を含めた現地視察は、木城町鳥獣被害アドバイザーの横田洋治氏を講師として招き、九州各県担当者から各県で抱える問題に絡めた様々な質問が挙がっていました。



今回の本管内での現地視察が九州各県で同様の農作物被害に苦慮する被害対策の成功に繋がっていくことを期待します。

南那珂地域

○電気さくによる果樹ハウス内へのサル侵入防止対策の実証

南那珂地域は、うんしゅうみやかんや日向夏、きんかん等の露地かんきつ産地ですが、サルやヒヨドリ等による被害が多かったため、被害防止対策の一つとしてハウス栽培への転換が進められました。

しかし、近年ハウス内への鳥獣の侵入が見られるようになり、今年度は、収穫盛期のマンゴーハウスにサルが侵入し、百個程度被害される事案が発生しました。そこで、南那珂地域特命チームは、鳥獣被害対策支援センターと対策を検討し、低コストな弾性ポールを利用した電気さく設置によるサル侵入防止に取り組みました。

今回実証した電気さくは、弾性ポール二本を結束して支柱代わりにすることでコスト削減をねらったもので、10a当たりの設置費用は約14万円となりました(表1)。

設置は7月3日に、生産者、JA、日南市役所、鳥獣被害対策支援センター及び南那珂農林振興局の職員15名で作業を行い、10aのマンゴーハウスを約4時間で囲むことができました。



電気さくの設置状況
(日南市南郷町贅波地区)

表1 鳥獣被害防止技術展示ほ 設置経費 規模:10a

品名	規格	単価(税込)	数量	金額
樹脂皮膜鋼管支柱	K2018 185cm×φ20mm	454	32	14,528
支柱専用ガイシ	G20 20mm支柱用	103	256	26,368
電牧線	PS520B 500m巻	7,560	3	22,680
弾性ポール	180cm×φ7.5mm	150	200	30,000
結束バンド(100本入)	203mm×巾3.6mm	432	8	3,456
電気さく本体	S500センサー	47,304	1	47,304
合計				144,336

定点カメラを設置してサルの動向を探りましたが、サルが電気さくに近づくことはなく、設置後の被害発生はありませんでした。生産者からは、「サルの侵入で枝折れ等の樹体被害も出たが、電気さく設置後は被害がなくなってきた。」との発言がありました。また、近隣のプロducerも注目しており、ハウスの団地全体を囲むという構想も進められています。